

How and why did the family meal start to disappear in the United States?

My friends in the United States have various explanations / why meals together aren't an option for their families].

Yet study after study shows [that having meals together as a family is good / for both adults and children].

Other studies show [that children like family meals].

内容Check!

問 次の各文が正しければ () に○を, 誤っていれば×を記入しなさい。

- In the US parents and children say they are too busy for a sit-down meal. ()
- Time spent in school is a more powerful factor in academic achievement than mealtime at home. ()
- Nearly eighty percent of young people like to eat dinner at home. ()

覚えておきたい表現

what is the point of ...ing? 「…することに何の意味があるのか; (反語的に) …しても意味がない」

ℓ.7: **what is the point of eating** together? 「一緒に食事することに何の意味があるの?」
 ・ what is the point of ...ing? 「…することに何の意味があるのか; (反語的に) …しても意味がない」: この point は「目的; 意味」。of は前置詞なので, 後ろにくる動詞は動名詞になることに注意。
 Ex. **What's the point of telling** a lie? 「うそをついたって何の意味があるのか [無駄だ]。』

分数表現

ℓ.15: **four-fifths** of adolescents 「青年のうちの5分の4」
 ・ 分数の読み方は, 分子を先に読み分母は序数で読む。「4分の1」は one-fourth, 「4分の3」は three-fourths。分子が2以上の場合は, 分母に複数の -s がつくことに注意。
 Ex. **one-fifth** of the class 「クラスの5分の1」

not+...ing 「…しないこと」(動名詞の否定)

ℓ.17: 21 percent rated "**not having** enough time with parents" as their top concern 「21%が「親と十分な時間を過ごしていないこと」を心配事のトップに挙げたのである」
 ・ 動名詞の否定「…しないこと」は, not あるいは never を動名詞の直前に置いて表す。ちなみに不定詞の否定の場合も to の直前に not や never を置く。
 Ex. **Not telling** the truth will make the situation much worse. 「真実を述べないことが事態をさらに悪化させるだろう。」

整理しよう! *段落要旨・構造*

1 アメリカ人が家族で食事をしなくなり始めた過程と理由

- アメリカ人の説明
1. 両親も子供も忙しくてゆっくり食事する暇がない。
 2. 子供のスポーツの時間が食事時間とぶつかる。
 3. 親は仕事の後に疲れ過ぎていて料理ができない。
 4. 10代の若者は放課後自分たちだけで出かけていて留守。
 5. 食べ物の好みが変わらばら。
- ◆ ℓ.7 **so** 「だから: 結果・結論」 → 一緒に食べたって無駄だ。

2 家族と一緒に食事をすることの利点

- ◆ ℓ.8 **Yet** 「しかし: 逆接」
 (結論) 家族での一緒にの食事: 大人にも子供にもよいことだ。
 (理由) ・ミシガン大学の研究: 子供の勉強の成績がよくなり, 問題行動が減る。
 ・家族での食事時間の効果は学校, 勉強, 礼拝, スポーツ, 芸術的活動の時間よりも大きい。

3 他の研究による報告

- 子供: 家族での食事が好き。
 ・青年の約5分の4が「家族で活動」の最高ランクに家族での食事を選んでいる。
 ・10代の若者の21%の心配事は, 「親と一緒に過ごす時間が不足している」こと。(2000年世論調査)

背景知識

●ワークライフバランスとは

本文のような状況を変えるべく, 仕事と家庭生活の両立ができるような働き方を目指す傾向が最近では出てくるようになった。その1つとして「ワークライフバランス」政策というものがある。これはもともと EU 諸国やアメリカなどで行われてきたものであるが, 日本では特に「仕事と生活の調和」を「ワークライフバランス」とし, 社会の活力や少子化を解決するものであるとしている。

EU 諸国では, 法制化による育児休暇取得支援や家計への補助金給付を行っている。一方アメリカでは, 法制化はせず, 各企業が独自に取り組んでおり, 自らの市場競争や生産性の向上といった「利己目的」のために「ファミリー・フレンドリー」をうたう傾向にある。「家庭」=「個人の問題」という伝統の下, 家庭と仕事の両立が難しい状況が1990年代まで続いてきたアメリカでは, 優秀な女性社員が子供を持つことで, 企業をやめざるをえなくなっていた。しかし, 企業は優秀な人材を欠くことが大きな損失となると考え, 企業利益のために「家庭に配慮した」すなわち「ファミリー・フレンドリー」な就業条件を整備するようになった。

日本では内閣府付けの「仕事と生活の調和推進室」が導入を進めており, 憲章や指針がすでに策定されている。平成20年度に事業費総額6兆円規模で企業, 地域, 個人の支援を行ったことが報告されている。
深めたい人: 厚生労働省『労働経済白書平成24年版労働経済の分析』(厚生労働省ウェブサイト <http://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/roudou/12>), 内閣府仕事と生活の調和推進室 (<http://wwwa.cao.go.jp/wlb/>)